

会 議 要 録

会 議 名		平成 29 年度 第 5 回 小平市青少年問題協議会
日 時		平成 30 年 2 月 6 日（火）午後 1 時 30 分～午後 2 時 55 分
場 所		小平市健康センター 4 階 第 2・3・4 会議室
出席者 等	委 員	11 名（欠席者 6 名）
	事務局	子ども家庭部長、家庭支援担当課長、生活支援課長、地域学習支援課長、指導課長補佐兼管理担当係長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		1 名
会議 内容	1 開 会 2 議 事 （1）市民意見公募手続の実施結果について （2）小平市子ども・若者計画（案）について 3 情報交換・意見交換 4 その他 5 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 資料 1 小平市子ども・若者計画（素案）に対する市民意見公募手続の実施結果について 資料 2 小平市子ども・若者計画（案） ひまわり「社会を明るくする運動」作文集 第 11 回 多摩六都ヤング・ダンスフェスティバル 第 14 回 小平よさこいスクールダンスフェスティバル in 2018 第 21 回 女（ひと）と男（ひと）のフォーラム～広めよう 男性の家庭参加～ 『子育てを楽しむ新戦略』 ～パパの笑顔が社会を変える～	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

（1）市民意見公募手続の実施結果について

質疑なし

（2）小平市子ども・若者計画（案）について

委 員	<p>青少対の活動を通して学校と関わっている。この協議会に参加して、子どもの未来を導いていこうと熱心に議論され、意見が計画や施策に反映されていくことを実感できた。学生の方が委員として参加されていることも心強く、ぜひ今後このような協議会があることを周りの人に広め、みんなで明るい小平市を作り、子育てにも協力してもらえると良いと思った。</p>
委 員	<p>青少対の活動や学校と関わり、日頃から子どものことに関心があったが、協議会を通じて、考えなければいけない問題があること、解決するために市が施策をまとめた計画があることを知った。それを支援が必要な子どもたちにいかに届けることができるかと考えさせられた。計画（案）64 ページで重点施策となっている「子ども・若者応援ガイドブックの発行」等を子どもたちに広めていく必要があると思った。</p>

委 員	<p>子どもだけでなく、家族への支援があることが良いと思った。施策を実施していくにあたって、計画（案）44 ページにある「直接届く支援」をきちんと届けるための関係機関の連携や、支援を必要とする人にたどりつけるようなアウトリーチを今後考える必要があると思った。</p>
委 員	<p>重点施策として挙げられている子ども食堂を、ぜひ実施してほしい。先日、東京都公民館大会の勉強会で西東京市の子ども食堂の事例発表を聞いた。公民館を会場として、市や社会福祉協議会等の職員が中心に複数の課が協力して実施し、市民や公民館の利用者も参加していた。公民館と学校、地域へと結びついていくことが大事である。公民館には調理室や講座室があるので、子ども食堂と学習支援をセットで実施できたらと思う。</p> <p>計画（案）72 ページの「家庭における親育ちを応援する」については、子育て支援課や公民館などが連携して進めてほしい。</p>
委 員	<p>子ども食堂などの取組に協力していきたいと思う。計画（案）37 ページにあるスマートフォンの所有率の結果から、多くの子どもが所有していることが分かる。利用の仕方には注意が必要であるが、情報収集の手段として利用価値があり、上手に利用していけると良いと思う。計画の現状と課題では、丁寧に数字を拾い資料がまとめられ、たいへんありがたい。</p> <p>専門家と非専門家の垣根がなくなってきている。専門家でなくても地域にいる時間のある方などが得意な分野で気軽に活動に参加し、力を発揮してほしい。計画（案）62 ページに「子ども・若者地域支援協議会の設置」が挙げられているが、熱意のある様々な分野の人の参加が得られたら良いと思う。</p>
委 員	<p>協議会に参加し議論をしていく中で、これまで目を向けていない取組があると気づいた。こういったことを若い世代が知ることが必要だと思う。計画（案）64 ページに「若者応援サイトの検討」が挙げられているが、今後インターネットがさらに普及することが考えられ、情報を簡単に見られるようになれば、若者が目を向けやすく、インターネット上で活動の情報や参加の仕方を見ることができ、さらに応募もできるようになると、ボランティア活動に参加しやすくなり、地域への関わりや貢献も進むと思う。</p>
委 員	<p>困っていることを気軽に相談できる場所があると良いと思う。要件に該当せず幼稚園の補助金を受けられない、保育所入所のために高い家賃の地域に住み生活が苦しい、といった話を耳にする。経済的支援の幅を広げられればと思う。また、市報の送付を受けておらず、情報が届かないため、悩みを抱えたままという人もいる。周囲の人に情報を伝えていきたい。</p>
委 員	<p>計画の内容や進捗状況について周知をしてほしい。市のホームページを活用して進捗状況を公表してもらいたい。また、計画は市が主体となって作成したが、市全体で小平市の若者の健全育成を進めているという意識を持って取組を進めてほしい。活動している人達を応援し、多くの人が関わっていけるようになると良いと思う。</p>
委 員	<p>これまでの 10 年と同様に、今後の 10 年でめまぐるしく社会が変化し、現在考えられないような状況になることも想定される。計画策定に当たって、</p>

	<p>10年後を見据えることができたのか、と改めて感じている。</p> <p>福祉は申請主義のため、本人から申し出があれば情報提供できるが、困っている人ほど名乗り出ることがない。そのような家庭をどのように支援につなげるかが課題である。学校教育の場で、このような計画や取組があることを周知し、活用してほしい。子ども食堂も、地域の人が子どもを誘うだけでなく、学校の先生から促してもらうのも有効である。今の子ども達が成長し、次の世代の子ども達のことを考えていけるようになればと思う。</p>
委 員	<p>自分の力を高め、勉強し、実践の場で活かすことが大切である。行政に頼る前に家庭が基盤として支えることが必要である。保護司の活動を通して、家庭の中に愛があれば罪を犯した人も更生が早いと感じる。夫婦間のつながりも重要であるし、相談できる場も必要である。</p> <p>施策は継続していくこと、そのためのヒト、モノ、カネがあることが大切で、市民は見守り、チェックする必要がある。一方で、地域のことは地域の人が担うことも大切である。</p>
会 長	<p>小平だけではなく世界中の子ども達が健全に育ってほしい。この計画をベースに、社会の変化に合わせて対応していく必要がある。また、しっかり広報しながら、計画を進めていくことが重要である。</p>

2 情報交換・意見交換

委 員	<p>「ひまわり『社会を明るくする運動』作文集」をご一読いただきたい。中学生が今考えていることや、中学生の言葉が表されている。</p>
委 員	<p>主任児童委員をしている。すぐになじめなくてもふとした時に悩みを打ち明ける子どもがいる。「斜めの関係」で話ができる存在が必要だと思う。現在の保護者は、子どもに対する期待が強く、親の思い通りにさせようとしたり禁止したりすることが多くなっている。子どもは親の期待に応えようとするが、ちょっとしんどいと感じたときに、話を聞いてくれる存在が必要だと思う。</p>
委 員	<p>地域で剣道の指導をしている。異年齢の集団でいろいろな経験をしており、行事等を通じて一体感を感じることができる。レギュラーに選ばれない、試合で勝てないなどで剣道をやめなくなる子どももいるが、声出しができて、大きな声が出るというようなその子の良い面を見付けてほめるようにしている。活動を通して子どもも保護者も団結力が強まっていると感じる。</p> <p>計画の進捗状況を公表する際には、活動内容がわかるように写真も掲載すると良いと思う。</p>
委 員	<p>「聞く」「傾聴」について学び、「間違っていることでもまずは受け止める」ことを実践できるようにしたい。地域で気付いた事について声を上げ、自分ができることを一つひとつ実践していきたいと思う。</p>
委 員	<p>子ども家庭支援センターで保育のボランティアをしている。相談に来る保護者は様々な悩みを抱えているが、相談に来られずに困ったり悩んだりしている人も多いと思う。相談に来て、話をするだけでも解決することがあると</p>

	<p>思う。相談に来られない人、悩みを抱えたままの人が減るように、子ども家庭支援センターで相談ができることをもっと知ってもらえると良いと思う。</p>
委 員	<p>学童クラブに関わっている中で、言葉づかいや言葉がけの大切さを実感している。明るい方に向ける言葉がけが大切で、作文集「ひまわり」でも、言葉や笑顔の大切さについて書いている子どもたちが多くいる。対話、笑顔がある家庭の子どもは困難なことがあっても強いと聞く。子どもの根っこを強くするような明るい言葉がけや笑顔を心掛けていきたい。</p>
委 員	<p>「女（ひと）と男（ひと）のフォーラム」の市民実行委員をしている。今回のフォーラムは、子育て世代の男女を応援したいと思い企画したものである。ターゲット層への情報提供がなかなか難しく、ぜひ広報にご協力いただきたく、またぜひ皆さんにも参加していただきたい。</p>
委 員	<p>子どもの貧困解決を目的として設立された「「なくそう！ 子どもの貧困」全国ネットワーク」主催の情報交換会に参加した。講演では、自治体ごとの貧困率の算出は国民生活基礎調査とは異なり、市町村が実施する調査では実施・分析が難しいという話があった。学習支援については、勉強を教える場所でありながらも居場所として機能している面も大きいという話があった。計画にも「学び直しへの支援」で学習支援が組み込まれているが、学習到達度だけでなく、居場所としての機能、子ども達の心への効果についても着目してほしい。また、今後予定されている「生活保護基準引き下げ」に関しては、全体として生活保護支給費が下がる人の方が多いという。個人としてできることを考え、実行していきたいと思う。</p>
委 員	<p>保育の現場では、仕事が休めず発熱ギリギリの子どもを預けるなど「子育てを楽しむ」を実現できている人は少ないと感じる。学校支援コーディネーターとしての学校との関わりでは、計画の「地域における子ども・若者の健やかな成長を支援する担い手の確保」に関して、支援者を育成するというより、地域の人が支える人になってほしいと思う。現在、地域の人に学校への関心を持ち続けてもらえるような取組を学校と検討している。地域の人に、学校、子ども達をずっと見守ってほしい。</p>
会 長	<p>自分の経験からも子育ての当事者は大変で余裕がないと思うが、後になって思うのは子育て中にぜひ楽しんでほしいということである。みなさんの貴重な活動の話を聞き、小平の子ども達の健全育成に力を尽くしていきたいと感じた。</p>